

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
194	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>	
Alcohol use, alcohol problems, and depressive symptomatology among newly married couples. 新婚夫婦におけるアルコール飲用、アルコール問題と抑うつ症状	
<b>執筆者</b>	
Homish GG, Leonard KE, Kearns-Bodkin JN	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b>	
Drug and Alcohol Dependence 83:185-192,2006.	
<b>キーワード</b>	
新婚、問題飲酒、鬱症状、飲酒	
<b>要旨</b>	
<p><b>背景：</b> 多量飲酒者と結婚した伴侶は、しばしば、そうでない伴侶と結婚したものよりも健康状態が悪いことはよく知られている。本研究は、夫婦の一方の多量飲酒や問題飲酒が、どのていど伴侶の鬱症状と関連しているかを検討したものである。</p> <p><b>方法：</b> 634組の新婚夫婦が婚姻届を出した際に、過去のアルコール飲用とアルコール問題について調査し、また、鬱症状を調査した。アルコール問題については配偶者に関連がある marital alcohol problem と関連がない other problem の2つの下位尺度がある。 調査対象は、ヨーロッパ系の米国人が59%で、年齢幅は18-69歳、平均年齢は、女性が26.8歳、男性が28.7歳であった。1年後、2年後に追跡調査を実施し、多変量解析によって夫婦一方のアルコール問題と伴侶の鬱症状についての関係を分析した。</p> <p><b>結果：</b> 夫と妻の marital alcohol problem は、両者とも妻の鬱症状と関連していた。夫と妻のどちらのアルコール飲用も、妻の鬱症状とは関連していなかった。夫の marital alcohol problem と多量飲酒は、夫の鬱症状と関連していた。しかし、妻の問題飲酒とアルコール飲用は、夫の鬱症状とは関連していなかった。</p> <p><b>結論：</b> 以上の結果は、新婚夫婦の男女の問題飲酒や飲酒習慣と鬱症状は、夫と妻とで鬱の発症危険度が異なることを示しており、今後更なる研究が必要である。</p>	